

にのみや学園

二宮町立二宮中学校

学校だより No.10



# 汐鳴り



令和5年度1月号



職員玄関に飾られた龍。今年も学校作業員の渡邊さんの手作りです。うろこ、ひげ、まつ毛など一つひとつのパーツが選び抜かれた素材を用いて一針一針、丁寧に作られています。隣には迫力あふれるもう一体の龍が。是非、ご覧あれ。

## ◎夢叶う辻原選手◎

「嬉しすぎて走りながら泣きそうになった。」と辻原輝選手。今年1月2日、3日に開催された第100回東京箱根間往復大学駅伝競走。一色小学校、そして本校を卒業した國學院大学1年生の辻原選手が往路第4区、地元の大きな声援を受けながら、この二宮町を立派に走り抜けました。「箱根を走りたい」という幼い頃からの夢を見事に実現した姿から、この二宮中学校のグラウンドで日々、陸上競技を頑張っていた姿を想像して思い描くと「本当に良かったね」と嬉しさがこみ上げてきます。来年、再来年…とこれから続く競技生活を在校生、教職員一同、応援したいと思います。期待しています。

## ◎ブラジル ベラノポリス市との交流◎

今からおよそ16年前の2008年（平成20年）より「長寿のまち」をキーワードに二宮町とベラノポリス市との交流が始まりました。ベラノポリス市は、ブラジルの最南端にある人口約26,000人のリンゴ栽培が盛んな地域です。昨年11月にのみや学園の小中学校より139通の手紙がベラノポリス市の小中学校へ送られました。本校も特別支援学級の全学年の生徒と社会科の授業で世界の国々を学んだ1年生全員が、日本の中学校生活や二宮町を紹介する手紙を日本語で書きました。一般社団法人NIELA（ニエラ）の方がポルトガル語と日本語の翻訳なども含めご尽力くださり、先日ベラノポリス市の小中学校からお返事が生徒一人ひとりに届きました。オンラインによるメールのやり取りが日常的になっている今、一生懸命描いた絵が添えられ、一筆一筆心を込めて書かれた手紙はとても懐かしく新鮮に感じられました。

いただいたお返事から一部抜粋して紹介します。

「ブラジルでは日本のアニメが有名で、大きくなったら日本で暮らしたいです。」

「日本を旅行する予定で、日本語を勉強中です。」

「寿司は人気があります。私の夢はラーメンを食べることです。きっととてもおいしいのですね。」

「日本に行って新幹線に乗ってみたいです。」

「あなたが有名なゴールキーパーになって、いつかブラジルでプレイすることを願っています。」

「サッカーは様々な社会階級や民族を団結させると考えられています。」「サッカーは芸術、人生です。」

「私はおしゃれとバレーボールが大好きです。」

「私の国の美しさを知ってほしいです。」

「ベラノポリスは温泉もあり、美しく魅力的な観光スポットがたくさんあります。」

「ガウシャ山地にある素晴らしいベラノポリスに是非来てください。」

## ◎新入生保護者説明会開催◎

1月19日、来年度の新入生保護者説明会を開催しました。14:00からの開始に向けて、昼休みに2年生のボランティアが体育館へ続々と集合。予想以上に多くの生徒が、シートを敷いたり、パイプ椅子を並べたり、あっという間に準備完了しました。学年主任の「ありがとう！」のこぼれに自然と拍手が響き渡り、冷え切った体育館がポツと温くなりました。

会が始まり「制服・持ち物」の説明の場面では、制服と体操服姿の2年生4名がモデルとなって登場。二宮小学校・一色小学校の6年生保護者の方々を前に、たいへん落ち着いて振る舞うことができました。もうすぐ最上級生になる2年生、会場準備もモデル役も大活躍でした。



校内には年間を通してボランティアグループ「花の和」の皆さんによる生け花が飾られています。いつも素敵なお花をありがとうございます。梅の香りが微かに廊下に漂い、春の訪れを感じる今日この頃です。